

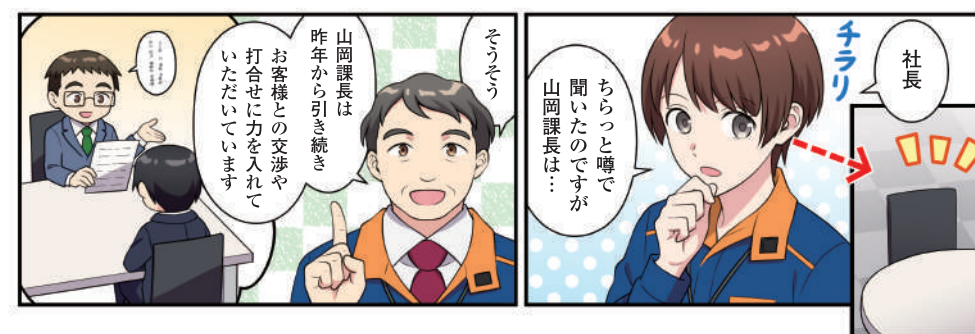


安全運転のレジェンド、
田村の教えは解説ページで

・・・今日も快晴!・・・ トラックドライバー日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤める
スタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第36話 プロとして 一人前の次に目指すこと



「事故はある」を前提に、被害を小さく少なくする

道路上では「矢が向かってくる」、構内では「思わぬ落とし穴がある」として慎重に。
アクセルの前に安全を確認、ハンドルよりブレーキで回避しましょう。



バック事故は“安全の風邪”。
重大事故よりもゼロにするのが難しいものです。

マンガ制作: ad-manga.com

どのような業種でも入社してまず目指すのは、仕事で「一人前になる」ことだと思います。一人前とは「自分のことは自分でできる」とであり、誰に聞かずとも仕事を納められることです。そうはいつても、ドライバーの仕事は「一人で社外や車内で行うことが多く、覚えることがたくさんありますから、教える人は「理解したかを本人に確認」をしましょう。教わる人は「迷ったら報告」をしましょう。

一人前になれば次に目指すべき道は、「誰にでも仕事を教えられる二人前の仕事」をすること、もしくは「誰にも真似ができないような一流の仕事」をすることです。どのような業種でも、自分で覚えたことを誰にでも教えられるのが仕事のプロであり、また自分で考えたことで誰にも真似ができない仕事をするのも仕事のプロです。

まずは「一人前」へ次に「二人前」か「一流」か

道路上に出れば、対向車を含めて動いているものはすべて「矢」と考えましょう。その「矢」がセンターラインを割り込んで、こちらに向かってくるかもしれません。また構内に入れば、思わぬ危険があると考えましょう。狭い場所・暗い場所への接車要請や、気付きにくい危険箇所が潜んでいるかもしれません。

「事故は無い」と考えれば、誰でも「確認は面倒」に感じるものです。しかし、いつでも「事故はある」と考えることで「事故と確認、どちらが嫌で面倒？」と自問自答し、面倒な確認も実践することができます。「事故はある」ことを前提にして、まずは事故を小さくする取り組みから始めましょう。

事故は「ある前提」で確認をする

「人生の」危険を予測して回避

自ら運転することは、加害者にも被害者にもなる可能性があります。速度を落とすことで危険を発見でき、対応もしやすくなります。人生を止めないためにブレーキを！



まさか・・・自分が事故を起こすとは思っていなかった
ではなく、
いつも・・・自分が事故を起こすかもしれない
と思って運転を



運転も事故も「するの人は」

私はいつも「自分が事故を起こすかもしれない」と思って出発していました。だから帰庫してトラックに車輪止めの装着した時には、「今日も無事(故)で良かった」と心底ホッとする毎日でした。

配送中、周囲のドライバーが無謀な運転をしたり、歩行者が無理な横断をしていることもありました。その中でなんとか無事に過ごせたのは、「出発前の点呼や月度のミーティングで聞いたことや学んだことを自身に置き換えてイメージしてから出発していた」ことが大きく、役に立つ教えを多くの人から得たことに感謝しています。

これからはその教えを継承するため、点呼場で伝えていければと思います。以前には存在しなかった運転支援機能も多く、安全のための環境は整いつつありますが、運転も事故も「するのは人」であることに変わりありません。仕事に安全であることは、安全な人生を歩める条件です。安全であることを「あたりまえ」と思わず、事故があることを前提にして安全行動に取り組み、無事故を目指しましょう。

サンライズ運送・田村 慎太郎 談

新入社員や新卒社員も、
いつかは先輩社員として育成する立場に

仕事や安全対策の「やり方」を教えて
もらう時は同時に、「教え方」を学べる
機会と捉え、自分自身の財産にしてい
きましょう。



高柳 勝二 (たかながき かつじ)

株式会社 プロデュープ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデュープ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。